

赤 城 山 観 光 情 報 紙

AKAGIT

AUTUMN / WINTER 2020



特集
こころの平穏を祈る旅へ。

滝沢不動尊・滝沢の不動滝

AKAGI **e-Bike** でちい旅！

あかぎこ女塾
小麦工房のひもかわうどん。 **ひとつぼし**

赤城山環境ガイドボランティア **SlowWalk**

昔も今も変わらぬ願い こころの平穏を祈る旅へ。

世の中は目まぐるしい。そのスピードに息切れしそうなほどだ。
そんな時は、ちょっとした旅に出てほしいと思う。あらゆる場所にさまざまな物語があり、触れ合う人々に心が温められ、ふとした瞬間に何を思うかを大切にする旅。
今回のAKAGIFTでは、赤城山の「石」をたずねて取材を重ねた。太古の歴史を紐解く上で、石は古の人々の様子を伝える最強のハードウェアそのものであったことに気づかされる。そして、そこから広がっていったのは、地元の人々が大切に紡いできた思いであったり、興味深い歴史秘話だったり…。今も昔も変わらない人々の思いに身をゆだねたら、明日を生きる力に繋がるかもしれない。

ここが、祈りのはじまり。 櫃石

所在地 赤城神社(三夜沢) 北方向

人々が神々に祈るという行為をはじめたのは、いつからだろうか。古代、岩石は神が降臨する宿りの場と考えられていたという。赤城南麓の三夜沢赤城神社の北方、標高877mのあたりに、神を迎えて祭った祭祀遺跡があり、その中心には櫃石と呼ばれる巨石がある。櫃石は「磐座」であり、赤城山の御神体と考えられていたようだ。櫃石周辺からは、古墳時代後期の土器、勾玉をはじめとする石製模造品などが出土。群馬県指定史跡であり、赤城山での祈りのはじまりともいうべき重要なスポット。アクセ



櫃石

スは、三夜沢の赤城神社の拝殿に向かい右脇に延びる小道を辿ると赤城山オートキャンプ場の敷地の一部へ出る。そこから登山道を約50分登ると櫃石へ辿り着く。

赤城南麓をはじめ 東国は仏教の先進地域だった。 山上多重塔

所在地 桐生市新里町山上2555

「土器などは、その形の流行などから時代背景を推測していくのですが、山上多重塔のようにはっきりとわかる文字資料は大変貴重なもの」。こうおっしゃるのは、桐生市教育委員会文化財保護課の加部二生さんだ。国指定重要文化財である山上多重塔は、801年(延暦20年)7月17日に道輪という僧侶が、平穏を願って如筆書写した経典を安置するために建てられたといわれている。なんと日付までしっかりと塔に刻まれていることに驚かされる。

今回、山上多重塔の鑑賞ポイントを専門家の加部さんにいくつかご説明いただいた。

「801年は平安時代にあたるわけですが、この頃はもちろん縦書きの文が常識です。しかしこの多重塔は、横にぐるりと時計回りに文字列



山上多重塔

を読んでいくのが特徴的です。また、実は、南側の文字が大きく、そのことから正面であったことが分かります。三重塔の塔を模したと推測され、正面には特に朱色の塗料がうっすらですが残っているのが視認できます」。まるで美術品を鑑賞するように説明してくれる。文化財も鑑賞のヒントが分かると俄然おもしろくなってくるから不思議だ。

「赤城南麓のあたりでは道忠教団と呼ばれた



実リムプロフィール

#29 桐生市教育委員会 管理部 文化財保護課
課長補佐 加部 二生さん
Nataka Kabe

前工の歴史研究部で考古学のおもしろさに目覚め、京都の大学を経て、滋賀県立大で論文博士の学位を取得。過去に山上多重塔、山上城跡公園などの発掘調査を担当した。



関の磨崖仏

天台宗の教団が非常に活発で、赤城山のこの地域が日本の仏教の先進地域となったのはこのためです。その証拠に道忠の弟子は4名も天台座主を務めているんですよ。また、山上多重塔を作った道輪も道忠の弟子の1人であったのではないかと考えられています」と補足してくれた。

山上多重塔のあたりは、かつては一面桑畑だったという。養蚕が盛んであったこの南麓ならではの光景が広がっていたが、今ではその光景が少し変わってしまった。ただ、昔と変わらず多重塔の背景には赤城山が悠然とそびえている。

鎗木川のほとりにたたずむ 仏さま。 関の磨崖仏

所在地 桐生市新里町関67-1

新里にある「関の磨崖仏」は、国道353号を南方へ下ってすぐの場所にある。鎗木川にかかる橋のたもとに、ひっそりと木々に身を隠すように鎮座している。道路に面して地元の人々が作ったという東屋があり、その奥に目を見張るほどの大きな岩がそそり立っている。これは赤城山



関の磨崖仏前にある丁石

の泥流によって運ばれた凝灰質の集塊岩で、高さ128cm、幅80cm、奥行き約80cmにも及ぶ。その中央部が船型に削られ、三尊像が彫り込まれている。三尊像は阿弥陀如来を中心に、右に観音菩薩、左に勢至菩薩が半肉彫りされている。鎌倉時代に彫られたと推定され、山上多重塔同様に朱塗りの跡もうっすらと残る。

阿弥陀如来は、無限の寿命と何にも遮られることのない光明をもち、観音菩薩は人々を思いのままに救い、勢至菩薩は人々に菩提心を起こさせることができるといわれている。

桐生市教育委員会の加部さんは「新里には関



の磨崖仏のほか、高縄の磨崖仏、大梨子の磨崖仏という2つの磨崖仏が存在しているのですが、これほど狭い範囲でまとまっているのは極めて珍しいことだと思います」と話す。

関の磨崖仏清掃活動等をしている新里老人クラブ(敬老会)のお二人と、縁のある瀧興寺のご住職にも話を伺った。

「このあたりは、滝沢道と呼ばれる道が通っていたようです」と切り出してくれたのは小池さん。粕川室沢地区の滝沢不動尊を起点として、新里の関にある真言宗のお寺、瀧興寺までを結んだ道があったという。その証が、現存する丁石である。滝沢不動尊を一目目として、終点となる瀧興寺は七十六丁目となっている。一丁＝109mなので全長8,284mに及ぶ道である。関の磨崖仏は、終点直前の七十四丁目(二十間)にあたる場所にある。江戸時代に造られたという丁石は風化が進みながらも表面裏面ともに、その文字をはっきりと確認することができる。

次のページでは、起点となっている滝沢不動尊をご紹介します。



#30 瀧興寺
住職 早川 求法さん
Guhou Hayakawa

#31 新里老人クラブ
会長 金子 春三さん
Haruzo Kaneko

#32 新里老人クラブ
前会長 小池 栄作さん
Eisaku Koike

このページに掲載の櫃石、山上多重塔、関の磨崖仏への
行き方など詳細はこちら



うっそうとした木立の中にある「関の磨崖仏」

戦国時代、赤城山周辺は、北条、武田、上杉による関東三国志の舞台となった。そしてその頃、こんな興味深い逸話が残されている。関東管領で戦の名手といわれた上杉謙信当時26歳が小田原攻めの際、粕川室沢地区の滝沢不動尊を訪れて必勝祈願に不動明王の右手肘から先を戦のお守りにしようと切り落としたという。途中、埼玉県の北部に位置する鹿島神社(現・深谷市下手計)に立ち寄り、宿にして寝ていたところ「この腕を持っていると戦に負ける」との神からのお告げがあった。そのため、戦には持っていかず、境内に埋めた。のちに村人が大切に祀り、現在は鹿島神社の不動明王の胎内に奉納されているという。

それゆえ、滝沢不動尊は「片手不動」とも呼ばれているが、右腕肘から先がないだけでなく、実は両足と火焰もない。境内にある案内板によると、両足は、三谷山不動院 瀧興寺(現在の桐生市新里町関)の本堂内で小さなお堂の中に大切に祀られており、火焰については謎のままということだ。

このミステリアスな滝沢不動尊、粕川の上流の不動滝近くの洞窟の中に建てられた不動堂の本尊である。中世に仏教が盛んであった東毛の広い地域(佐貫庄)の庄氏をしていた豪族の藤原道広※が、仏への厚い信仰心から応永13年(1406年)に造立したものとされている。この地は、山岳信仰が盛んであり、古くから修験道場として開かれており、不動滝で修行していた修験僧が滝沢不動尊の本堂前の建物に寝泊まりしていたそう。

この滝沢不動尊は江戸時代に起きた度重なる火災にも村人や多くの信者の手によって再建されてきた歴史や、不動尊の守護を務める別当職が置かれ、大切に守られてきた過去がある。そして現在、地元 粕川室沢地区の自治会役員さん12名を中心に地区の皆さんで管理している。地域から長く愛され、「不動様」と呼ばれている。自治会長の高岸さんは次のように語ってくれた。

※群馬県史では広道と表記され、諸説ある。

参考文献
『滝沢不動尊由来』『粕川村誌』『上毛三山 赤城・榛名・妙義の歴史と信仰』

右腕を持ち去った
謙信に神のお告げが・・・



漆黒のお姿の不動様。鉄造不動明王立像の文字から、鉄製と確認できる。

不動様に見守られ、
そして大切にお守りしてきた。



滝沢不動尊の境内は、カエデなど新緑や紅葉の頃色づく樹木が多く生え、何度見ても美しく、見飽きることがありません。はじめて訪れる方は、巨大な岩壁の中にお堂が建っているの、そのことに驚かれる人も多いようです。

不動様は戦の神。写真などでは一見「こわい表情」に見えるかもしれませんが、実際に見た時にはとても穏やかな優しい表情に感じますし、我々をお守りくださっているなと感じています。わたし自身、子どもの頃から近くの不動滝周辺でよく遊んでいたこともあってとても身近な存在。大人になっても何か迷う時、困った時があれば不動様を心のよりどころとしてきました。参拝客の中には、高校・大学受験合格を祈念して訪れることも多いようです。

滝沢不動尊が一年に一度、間近にご覧いただけるご開帳日があります。毎年5月5日に春の例大祭として朝8時に集まって、皆さんをお迎えできるように甘酒づくりなど準備をします。ここの湧き水で作し、参拝客には無料でふるまいます。ちょうどその頃、ツツジが綺麗な季節です。滝沢不動尊から歩いて20分ほどのところに、迫力の不動滝があります。見上げた尾根にピンクのアカヤシオが連なるように咲いて見事ですから、ぜひ足を運んでもらえたらうれいですね。



笑り人 左から
#33 不動委員長
星野良一さん
Ryoichi Hoshino
#34 粕川町室沢区自治会長
高岸伸夫さん
Nobuo Takagishi

【所在地】 滝沢不動尊 前橋市粕川町室沢1130

※感染症の拡大状況により、祭事等の内容が変更、または中止となる場合があります。

滝沢不動尊・滝沢の不動滝 まで行ってみた！

滝までの遊歩道は、川を渡ったり、斜面や岩を上ったりする場所があります。服装は、虫刺されや枝などのケガを防ぐため長袖、長ズボン着用、特に靴は防水性のある滑りにくい登山靴やトレッキングシューズなどが望ましいです。秋や冬は冷えますので、余分に上着や中に着込むものを持って行きましょう。

⚠ 降雨後は、川の水量が増加することがありますので、お出かけを控えるなど十分に注意してください。四季折々の表情豊かな勇壮な滝です。準備をしっかりと、安全にお楽しみください。

不動前
駐車場 20分 滝沢
不動尊 20分 滝沢の
不動滝
※帰りにかかる時間は同程度か、少し早まる。

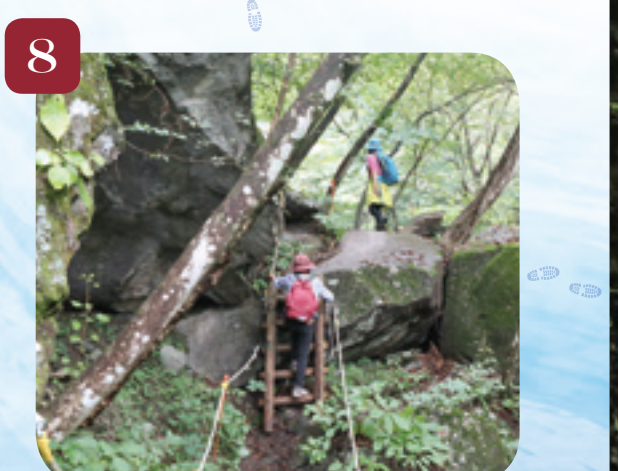


滑りやすい岩場。
用心して歩こう。

途中は、川を横切ることも。



さらに道は険しく・・・



ハシゴのある箇所を登って。



1 不動前駐車場に駐車し出発。下りからはじめる。まずは滝沢不動尊を目指す。



2 歩いて5分程度で、最初のポイント「延命猿」に出会う。特に説明書きはないが、その名の通りと想像する。



3

続いて「忠治みはり岩」。大きな洞穴のようになっている。



4

道中の安全を願って参拝。



5

軽く休憩して再出発。目を見張るような巨石の数々。



受験の時など“勝ちたい”時に頼りになるお札やお守り。

9 滝沢の
不動滝

不動滝に到着！
道なりに歩いていると、突然の絶景が待っている。大迫力の音と水しぶき。マイナスイオンと森林浴で心と体が整う。真夏ならばミストシャワーが最高に気持ちよさそう。



AKAGI e-Bike でちよい旅！



坂道らくらくe-Bikeでサイクリングに出かけよう！
今回は石を巡りながら、地元グルメや景色などでリフレッシュ。

e-Bike(高性能電動アシスト付スポーツ自転車)は自転車に乗れる方なら、どなたでも気軽に乗ることができます。服装はパンツやスパッツのスタイルにスニーカー、両手が見えるバッグ、秋冬は風を受けるので着脱できる防寒着や手袋、ネックウォーマーがあると安心。(裾が広がっているパンツは巻き込まれ、危険なので避けましょう。)アシストは、エコモードのほか、3段階あります。自分の脚力や坂の傾度に合わせて変えられます。

南麓Ride

1 START!

前橋市大胡支所でAKAGI e-Bikeをレンタルして出発！

2

わずか5分ほどで、最初のチェックポイント「兜石」に到着。源義家が自身の兜を、この石の上に置いたことから名付けられたそう。

どう置いたのかな？！

GOAL!

10

上電の「粕川駅」から「大胡駅」までe-Bikeとともに乗車。駅から大胡支所までは数分で到着。

9

粕川なっとう！地元産大豆でつくる豆の味がおいしい納豆もおみやげに。

8

後閑養鶏園でおみやげにプリンをゲット！

LUNCH!

7

太田食堂でランチ！カツカレーラーメンが有名。

6

最終チェックポイントに到着。辺り一帯、電線などの障害物がないため、抜群の存在感を放つ「山上多重塔」。

5

金剛寺の「蚕種石」。参道の桜並木の脇にひっそりとあって可愛らしい青面金剛像の台石となっていた。蚕が成長とともに色を変えるよう、石の色が変化すると言われている。かつて養蚕が盛んだったことを伺い知る貴重な石。

4

最初のチェックポイント「兜石」と同様に源義家にまつわる逸話が残る「八幡神社のすずり石」。出陣の途中に自身の名に縁のある八幡神社に立ち寄り、この石にたまった水で墨をすり、兵を志願した村人の名簿を作ったのが名前の由来だそう。

隠れたフォトスポット発見！

3

2番目の石巡りチェックポイントは、じゃじゃーん、その名も「鼻石」。鼻石を研究している方にお話を伺った。



参り人プロフィール

#35 五百部 正さん
Tadashi Iobe

元前橋市職員。子どもの頃から石器などの石を集めたりするのが好きだった。



この2つの穴、何に見えますか？

前橋市宮城地区に「鼻毛石」というインパクトのある地名があります。宮城支所の近くの「鼻石」が由来といわれているのですが、ぜひ実際に石の裏手に廻ってみてください。実際、鼻の穴にも見えるような2つの穴が空いている箇所があるんですよ。では、いつ頃からこのあたりがそう呼ばれるようになったかという、戦国時代の頃の書物には記されていたようです。もともと、「鼻カ石」や「鼻ヶ石」「鼻石」など様々な表記で書かれていて、「はなびし」と呼んでいたものが、明治の頃から毛を使うようになり、鼻毛石町として統一されました。いにしえに通じる立派な地名であることに間違いなようです。

東麓Ride

1 START!

サイフルトレインとしても有名な上毛電鉄で自転車と一緒に大胡駅から赤城駅まで乗車。わたらせ渓谷に沿って、美しい里山風景の黒保根を巡るロングライドを楽しめます。

黒保根エリア、国道122号以外は交通量は少なめ。快適にサイクリングできちゃう♪

LUNCH!

2

今回はVol.6でご紹介の「ろぐてい」へ

3

手作り豆腐がおいしい赤城豆腐すみれ屋。とろとろのチーズ豆腐(ゆず)がおいしくてリピート決定♪

GOAL!

7

ちょっと日が沈みかけてきた夕暮れ時に赤城駅に。自転車ごと上電に乗って大胡駅まで戻ってきました。

6

常鑑寺で鐘突きに挑戦！静かな山里に、重みのあるいい音がこだまする。

合掌してから いざ！

4

平地にぼつーんとある石、この石、何に見えますか？真ん中にたまった水をすくって直したいイボに当たると、消えるとか。本当！？勇気いる。とりあえず挿んどこっか。

5

亀石に到着。あれが女亀！亀石の近くは紅葉の絶景ポイント。紅葉の海を泳ぐ亀のような不思議な光景に出会えます。

ふるさとを愛する心は、民話から生まれる。

黒保根町上田沢地区には、黒保根の民話としても語り継がれている「亀石」があります。心優しい男亀が天狗様からの励ましによって、女亀とめでたく結婚して幸せに暮らすストーリーです。実際に、男亀と女亀の2つの巨石があって、地元の有志が集まって小正月にしめ縄を作って二体を結びます。女亀のほうは道路側から目視できますよ。もともと黒保根は民話がとても多い地域で、おばあちゃんたちが孫に針仕事をしながら民話を聞かせていた光景もよく見られました。これから先も、黒保根で暮らす子どもたちに語り継いでいてもらいたい大切な文化だと思います。

参り人プロフィール

#36 川池 三男さん
Saburo Kawaike

89歳。元黒保根村教育長、初代黒保根歴史民俗資料館館長。黒保根村誌編纂に携わる。平成22年には「黒保根の民話」(私家版)を発刊。

AKAGI e-Bike Community Cycle
レンタル・サイクリングツアーについてはコチラ



“キラリと光る”小麦工房のひもかわうどん。

お腹いっぱいになって満足して帰ってほしいというご主人の言葉通り、うどんも天ぷらも盛りが良い。



赤城南面千本桜やぐりーんふらわー牧場など、赤城南麓の観光スポットが点在する国道353号を桐生方面へ向かってしばらく走ると、突如現れるのが「小麦工房ひとつぼし」。囲炉裏のある風情あふれる古民家を改装し、約2年半前にオープンした。群馬県産小麦「絹の波」を使って、ご主人の孝一郎さんが毎日手打ちしている。打ったうどんを一番良い状態で提供するために、まずは2～3日寝かせてしっとりとさせる。その日の麺の状態を見極め、ゆで時間を秒単位で変化させているという。また、食感を楽しんでもらうために、あえて厚みは均一にしない。さらに箸で持った時のすくいやすさを考えつつ目でも楽しめるよう、麺の幅は7cmと決めている。あわせる出汁



座敷席の隣には、囲炉裏や箆笥階段。和を感じる空間に心がやすらぐ。

は、シンプルに鰹を中心、鯖と昆布から丁寧に取ったもの。濃さの調節も喜んで対応してくれるそう。

どこまでもお客様目線で考えられたメニューで、かつリーズナブルな価格設定。だから何度でも足を運びたくなる。「場所柄、観光客の方に立ち寄っていただくことも多いのですが地元の方にも気軽に足を運んでもらえるようなお店にしたい」と話すご主人。その隣で優しく微笑む奥様の左智子さん。

「地元愛が強い群馬、そんな空気が自分にとって居心地がいい」と話す横須賀生まれのご主人は過去にパティシエとして働いていたことがあった。それは、いつか喫茶店をやりたいという夢があったからだそう。その夢は、地域に愛されるこだわりの小麦工房という形で実現された。ひもかわうどんと言えば桐生の名物だが、ここは中でも最西端に位置する場所にある。たった一つ出ている星、まさに“ひとつぼし”のような存在だ。

人気の肉汁



出汁の味が効いた具沢山のあたたかいつけ汁。麺に程良く絡む。

小麦工房 ひとつぼし

桐生市新里町赤城山542-1
0277-46-9748
11:00～15:00
不定休

詳しくはこちら！

赤城山環境ガイド
ボランティア

Slow Walk

赤城の鍋割山

赤城山はいくつかの峰の集まりで、黒檜山、地藏岳、鈴ヶ岳、荒山、鍋割山が赤城五峰と、それに駒ヶ岳、長七郎山が加わり赤城七峰と呼ばれています。

その中で、前橋市街地から見える一番近くの山が鍋割山です。鍋割山登山ハイキングには、前橋駅から車で約40分位で登山口のある姫百合駐車場に到着、そこから登山を開始し、荒山高原を経由して鍋割山の山頂まで約1時間半から2時間で到着いたします。

登山道脇には、5月のツツジ類から、カタクリの花、クサタチバナ、レンゲショウマやツルニンジン、キオン、ワレモコウなどが登山者の目を楽しませてくれます。

1月、2月の寒くなる冬の時期には積雪があり、雪化粧した景色を見ることができます。私が特にお勧めなのが、この厳冬期の荒山高原から鍋割山頂までの尾根道です。登山道左側は筑波山からスカイツリーも見え、右側には上越国境の白く輝く峰々、浅間山。そして、正面には富士山、八ヶ岳の眺望と空気の澄んだ季節の景色が堪能できます。

ただし、鍋割山は標高1332mと低山ですが、厳冬期にはマイナス10℃からマイナス15℃くらいになりますので、右表にある通常の登山装備に加え、氷や氷化した雪の上を歩く際に滑り止めとして靴底に装着するアイゼン、ヘッドランプ、帽子・手袋などの冬山装備をしっかりと準備してください。そして、天候と体調を考え決して無理をしないで行動してください。

赤城自然塾では、年に数回、赤城山環境ガイドボランティア養成講座を開催していますので、私たちと一緒に赤城山を楽しんでみてはいかがでしょうか。皆様のご参加をお待ちしております。

家族や山仲間等、必ず連絡がつく方に登山届の控えを残しましょう。
また、山のリスク管理は自己責任ですので、保険に入ることをお勧めします。
十分に準備と下調べをして登山を思いきり楽しみましょう！



文・写真 青木 誠二

安全な登山のための準備

持ち物

地図、コンパス、雨具、懐中電灯、携帯電話(予備バッテリーがあると安心)、レスキューシート、ヘッドランプ、飲料水、行動・非常食、救急セット(虫刺され薬、バンドエイド、鎮痛剤等)
※飲料水は下の数式によって算出した量で用意しましょう。水は傷口の洗浄にも使えます。夏場や汗かきの方は多めに持ちましょう。

[50kg(体重)×4時間(行動時間)×5(定数)=1,000cc=1リットル]

服装

- 肌着・シャツ:吸湿速乾性のもの(特に木綿は汗に濡れて体温を奪うので不可)。真夏でも濡れて強風に晒されると低体温症を引き起こすことがあります。
- ソックス:濡れてもある程度体温を保つウールが良い。
- 靴:足首を守るハイカットの防水の登山靴。アイゼンを装着するにはソールの固いものやできれば冬用登山靴。雪山登山時は、ゲイター(靴の中に雪が入らないようにするカバー)をつけましょう。
- 手袋・帽子:転倒時のけがを防ぐため、帽子は熱中症対策も兼ねます。冬季はニット帽と手袋は予備を持つこと。風で飛ばされたりして凍傷になる危険があります。
- 防寒着:季節に関わらず持っていくようにしましょう。
- リュック:外にぶら下げたり挟んだりすると枝や岩に引っかかりたりバランスを崩すので、容量に余裕のあるものを選ぶとよいです。手提げやショルダーバッグは避けましょう。

冬の装備アドバイス

赤城山は冬山入門コースとしてしばしば紹介されますが、頻繁に-15℃にもなり凍結します。アイゼン、トレッキングポールでは滑落停止はできませんので、ピッケルがあると安心です。

※コンロ等を使用する際は山火事防止のため、安定した場所を選び難燃性のコンロマット(ベニヤ板(30cm角)でも可)を敷くのが鉄則! 周囲に燃え移らないように十分に注意しましょう。

AKAGIFT 編集後記

e-bikeで赤城の自然を
体いっぱい感じてリフレッシュ!
爽快感をぜひ体験してください!

もぐ



上電にe-bikeに乗ったら、
旅気分が倍増!
電車と自転車、おススメします。

ライダーひろ



赤城山ツーリズム地元推進協議会

NPO法人 赤城自然塾

観光庁登録 観光地域づくり法人(DMO)

〒371-0231 群馬県前橋市堀越町1115 前橋市大胡支所内

TEL 027-212-2611 FAX 027-212-2691

<https://www.akagi-trip.com>



Information

AKAGIFT



AKAGIFTはクチコミサイト「ぐんラボ!」とコラボし、スポットの最新情報やクチコミをチェックできるようになりました! お出かけの際は各QRコードに、ぜひアクセスしてみてくださいね!